

様式第4号（第11項関係）

西脇市審議会等の会議の記録

審議会等の名称	令和7年度第1回西脇市上下水道事業審議会
開催日時	令和7年10月22日（水） 午後2時00分～4時00分
開催場所	西脇市役所2階 議会委員会室
出席委員の氏名又は人数	長峯委員、岡本委員、時政委員、齋藤委員、高瀬委員、東田委員、大城戸委員、門上委員、作江委員
欠席委員の氏名又は人数	菫澤委員
出席職員の職・氏名又は人数	小倉技監、伊藤部長、内橋課長、芦田課長、板場課長、後藤補佐、藤本補佐、宮崎主査、村上主査、藤田主任
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	
傍聴人の数	1人
議題又は協議事項	議事 (1) 会議録署名委員の指名 (2) 令和6年度水道事業会計決算報告及び経営戦略との比較について (3) 令和6年度下水道事業会計決算報告及び経営戦略との比較について (4) 水道水中の有機フッ素化合物（PFOS及びPFOA）における水質管理の取組について (5) 上下水道事業の取組について
会議の記録（概要）	
発言者	別紙のとおり
問合せ先	西脇市建設水道部経営管理課 TEL 0795-22-3111 FAX 0795-22-8573
委員の署名 (会長)	長峯 純一 東田 和夫 大城戸 宗孝

会議の記録（概要）	
発言者	
会長	<p>○ 開会</p> <p>本日の審議会の会議録署名委員に東田和夫委員と大城戸宗孝委員を指名します。</p> <p>○ 今回の審議会について事務局から説明</p> <p>○ 令和6年度水道事業会計決算報告及び経営戦略との比較について事務局から説明</p>
会長	<p>地方公営企業については、毎年度の維持管理等の収入支出である収益的収支とインフラ整備に係る資本的収支の二本立てとなっています。それに加え、市の一般会計からの負担金や国県からの補助金等もあり、初めての方にはなかなか理解しにくいものですが、何かご質問等があればお願いします。</p>
委員	<p>水道施設の配管について、古くなると取替えが必要となってきますが、実際にどのくらい経つと更新していくのでしょうか。漏水等の発生も懸念される中、年次的に計画を立てて更新されているのでしょうか。</p>
事務局	<p>管路の更新について、一般的な法定耐用年数40年に対し、西脇市では、経営戦略の中で铸铁管等の更新基準年数を60年に設定することで更新費用を削減しています。</p>
会長	<p>水道ビジョン・経営戦略の前回改定時に、水道のインフラがどれだけあってどれくらいが法定耐用年数を迎えているか等の資料に基づき、どのように更新していくかという計画が立てられました。その更新計画に従って、予定どおりの施設の更新が行われているのか、ずれが生じているのかということがわかれば、より理解が深まるのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>更新距離を単純に割ると、若干遅れているというこ</p>

	<p>とになるのかも知れませんが、必要に応じて更新を行っており、漏水事故の頻度の高いV P管等の整備を順次進めているところです。</p>
委員	<p>空き家が増え、家と家の距離が長くなることで、その間の老朽管の更新は公費で行うことになるのでしょうか。</p>
事務局	<p>管が古くなっていけば、漏水事故につながることも考えられることから、更新していかなければならないと考えます。</p>
会長	<p>全国的に空き家も増えてきています。経営戦略の中では、こういった事案も考慮に入れて計画を立てているのでしょうか。</p>
事務局	<p>経営戦略の中では、そういったことも踏まえて更新計画を立てています。</p>
会長	<p>想定以上に人口減少や空き家が増えるといったことになれば、更新費用の増加も考えられると思うが、今のところそういうことはないのでしょうか。</p>
事務局	<p>常に方向性は見直す必要があり、来年度には5年ごとの計画見直しの時期となるため皆さまにもご審議いただくこととなります。</p>
委員	<p>収益的収支について、決算値では収支40万円の損失であったが、経営戦略値からすると収益は上振れて費用が圧縮された結果、純損失の見込みは大幅に縮小改善されているというような説明がありました。実績ベースではマイナスであったけれど、計画ベースでは評価できる決算であったという認識でよいのでしょうか。また、収益が上振れた要素は何だったのでしょうか。</p>
事務局	<p>経営戦略値に比べ、水道料金が994万円、特別利益や給水分担金等のその他の収入が1,379万円増加した</p>

	<p>ことなどにより、経営戦略値よりも損失を抑えることができたということです。</p>
委員	<p>経常収費比率が 100%を切っており、営業外収益が減少したという表現になっているが、収益的収支のところの収益で上振れがあったという説明と矛盾があるのではないですか。</p>
事務局	<p>先ほどの収益的収支の説明では経営戦略値との比較を表しており、経常収支比率の説明では前年度との比較を表しています。</p> <p>前年度には、水道水の濁りに起因する損害賠償金の増等により営業外収益が増加したことにより経常収支比率が上昇しましたが、今年度においては前年度に比べ営業外収益が減少したことで2.6ポイントの減少となっています。</p>
委員	<p>経常収支比率というものは、説明にあるように維持管理費や支払利息等の費用を料金収入等できっちりと賄っている 100%を目指すことが大事なのかどうか、という点はどうでしょうか。</p>
事務局	<p>100%を目指して事業運営を行っています。</p>
会長	<p>純損失は、前年度に比べどうなったのでしょうか。</p>
事務局	<p>令和5年度決算では、春日浄水場廃止に伴う固定資産除却により現金を伴わない費用の発生があったことから、約 4,600万円の純損失を生じました。</p> <p>ただ、除却は特別損失で計上していますので、経常収支比率には直接影響するものではありません。</p>
委員	<p>2 ページの収益的収支の表の収益の「その他」には特別利益が含まれますが、令和6年度に 1,585万円であったこの特別利益が、経常収益には含まれません。よって、経常利益総額は前年度に比べ減少し、経常収支比率（＝経常収益÷経常費用）も前年度に比べ減少したということですね。</p>

委員	<p>料金回収率のグラフについて、令和5年1月の料金改定に伴い料金収入は減収見込みになっていると理解していたが、収入要素が減る中で回収率が86.32%から93.18%に上昇している理由は何ですか。</p>
会長	<p>料金改定の内容はどのようなものだったでしょうか。</p>
事務局	<p>基本料金内に20^m³を含んでおり、そこまでは使っただけでも基本料金という料金体系から、基本料金を下げ、その中に基本水量を含まず、1^m³でも使えば加算されていく料金体系に変更させていただきました。この形態に変えたことによって約2,600万円の減収を見込んでおりました。</p> <p>令和6年度に料金回収率が上昇したのは、費用的な減少と収入についても微増となっています。</p>
会長	<p>令和4年度、5年度が低くなっていますね。</p>
委員	<p>減免することによって給水収益が減少しているので、料金回収率が低くなっていますね。</p>
会長	<p>令和2年度が60%になっているのも、新型コロナウイルス感染症対策として半年間料金免除を実施したことによるものでしたね。そういったことが、すべてこの回収率に反映されているということですね。令和3年度には95.86%まで上昇しているが、減免等はないのですね。</p>
事務局	<p>令和3年度は実施していません。令和4年度に料金改定及び2か月間の料金減免を実施し、令和5年度にも料金改定の影響を受け低くなっています。令和6年度には、給水戸数の増加等により少し持ち直しているという状況です。</p>
委員	<p>減免等の変動要因がなくなれば、元に戻ってくると思われます。</p>

<p>会長</p>	<p>いろいろな質問をしていただけると、審議会全体として理解が深まります。</p> <p>○ 令和6年度下水道事業会計決算報告及び経営戦略との比較について事務局から説明</p>
<p>委員</p>	<p>西脇市の下水は最終的に流れて小野市黍田の加古川上流浄化センターに流れていくと思うが、流すにあたっての負担金等が必要だと思います。それはどこに出ているのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>3ページの収益的収支の内訳グラフの中に出ておりました、流域下水道維持管理負担金1億5,764万円となっています。</p>
<p>委員</p>	<p>加古川上流浄化センターも建設されてからだいぶ期間が経っているが、建て替え等の計画はどうなっていますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>加古川上流浄化センターについては、兵庫県を事業主体に神戸市、三木市、加西市、加東市と西脇市で運営しております。現在、老朽化した機器等の更新は県で計画的に実施されていますが、施設の建築等の更新時期については聞いておりませんので、当面はないのではないかと考えています。</p>
<p>委員</p>	<p>引き続き現在の場所でできるということでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>年に2回、黍田町の自治会、県、関係市で環境保全委員会という会議を開催しています。課題や問題を解決していく中で、今のところ、いつまでしか認めないというような話が出ていないので、この先も使用させていただけるというところで進んでおります。</p>
<p>会長</p>	<p>流域下水道は、西脇市独自で処理施設を持つのではなく、加古川沿線の自治体が県の作った下水道処理施設につないで処理してもらおうというものですが、割合</p>

	<p>から言うのとどのくらいですか。</p>
事務局	<p>黍田町に流している下水の量としましては、旧西脇市分がすべて流れています。旧黒田庄町分は黒田庄浄化センターで処理しています。</p>
委員	<p>少し前ですが、下水道管の老朽化による道路の陥没事故が起きましたが、西脇市におけるそういった危惧について状況をお聞きしたい。</p>
事務局	<p>昨年、埼玉県八潮市において陥没事故が起きました。その後、国から直径2mを超える下水道管（汚水）について緊急点検実施の通達がありました。西脇市では該当する下水道管はありませんが、直径約1m20cmくらい下水道管が野村町ローソン前を通って滝野に行くところにあります。念のため、マンホールを開けて目視点検を行ったところ、異常は見受けられませんでした。</p>
会長	<p>来年度、経営戦略の改定時にも、インフラ計画で老朽化した管をどのように更新していくかということも議論していくことになるのでしょうか。</p>
事務局	<p>計画的に更新していけるよう見直しを行っていくこととなります。管路については、西脇市は他市に比べて比較的新しく、耐用年数50年に対し、概ね30年経過となっていますが、今後、計画的に更新していけるよう進めていきます。</p>
会長	<p>○ 水道水中の有機フッ素化合物（PFOS及びPFOA）における水質管理の取組について事務局から説明</p> <p>PFOS及びPFOAについては現在、努力目標値となっていますが、来年度からは水質基準になるということで法律に入ってくるので、絶対に守らないといけないということですね。</p>
委員	<p>第6水源地の数値が非常に高いということですが、</p>

	<p>有機フッ素化合物の検出の原因等について説明していただけますか。</p>
事務局	<p>上戸田浄水場系統の水源地は6か所あり、すべて井戸で地下水となっています。地下の水脈がどのように流れているのかなど難しい問題があり、原因の追求はなかなか難しいと考えています。</p>
委員	<p>フッ素というのは人工物で、自然界に存在する物質ではないと思うのですが、工場の排水等も影響があるのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>河川や水路の水であれば、その水を採取してどこかの濃度が高い低いという、ある程度の目安はつくと思いますが、地下の水脈が川の方へ流れているのか、どこから浸透してどこへ入っているのかは分からない、としか言いようがありません。</p> <p>水道水としては使っていませんので、安全な水を提供しているというところには影響しておりません。</p>
会長	<p>今後、第6水源地は使用しないということですか。</p>
事務局	<p>取水停止しておりますが、数値を測っておりますし、安定して下がることがあれば今後使うかも知れませんが、今のところ数値は超えているので使う予定はありません。</p>
会長	<p>原因は調べようがないということですか。調べてはいるのですか。</p>
事務局	<p>水道管理者としましては、第6水源地の水質の検査は定期的実施していますが、そこから先の地下水については調べていません。</p>
委員	<p>調べ始める前の年は大丈夫だったのですか。</p>
事務局	<p>令和2年度に法改正があり、令和3年度から努力義務ということで、西脇市は水質検査を行っています。</p>

各浄水場の1か所の水源地で測っておりまして、すべての水源地ということではありません。

令和6年度の低減対策として、浄水におけるPFOS及びPFOAの値が目標値以下ではありますが増加傾向にありましたので、浄水として確認する必要があるとして、上戸田浄水場系統のすべての水源地の水質検査を初めて実施したところです。

○ 上下水道事業の取組について事務局から説明

○ 令和7年7月23日に発生した水道管の事故に伴う濁水対応とその補償について事務局から説明

○ 今後の審議会実施予定について事務局から説明

(閉会)